

岩屋中だより

令和6年2月1日 NO23

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

思いやり・支えあい＝震災から学ぶ日常の『有難さ』

1月1日午後4時10分、能登半島において、震度7の大きな地震があり、建物の倒壊、火事、津波、がけ崩れ、道路の寸断など、能登半島では大きな被害を受け、現在も行方不明の方の搜索が続き、避難生活も物資が届かず、大変苦しい思いをしている方々います。また、「倒壊した建物の復旧も進まず、街が地震直後の状態のままになっている地域も多く報道されています。その中でも、時間が経過していながらも生命をつなぎ留め、救出をされたという報道や、家族を失った方の悲しみも報道されています。また、最近では、避難所生活が厳寒で、医療ケアも十分に受けられずに苦しんでいる人たちがいると聞きます。お風呂も、トイレも十分になく、大変苦労されているという話も聞きます。

大きな地震による震災は、今回の能登半島での地震に限らず、大阪地震、熊本地震、東日本大震災、阪神・淡路大震災・関東大震災など多くあります。そのような災害が起こった時に、私たちの『素(す)』の部分が見てくるのも事実です。多くの方が苦しんでいる中で、倒壊した家屋から窃盗する人など心なき行動があることを報道で聞くと、大変心が痛みます。

あるニュース番組で次のようなインタビューがありました。『私は、仕事で金沢で行っていました。地震があって急いで帰宅したら、家族は皆亡くなっていました。お正月ですよ。なぜこのようなことにならなければいけないのですか？私は何か悪いことをしたのですか？どうして、こんなことにならなきゃいけないのですか？』と涙で答えていた人がいました。また、珠洲市で被災した中学生は、学校が避難場所で学習ができないことから、別の市に集団で避難場所を写し、親元を離れて出発する姿が報道されていました。保護者の下を離れ、『行ってきます。』と不安な表情で出発する中学生を見て涙が出ました。私が生きてきた半世紀ちょっとの間で、長崎も、諫早も、雲仙も災害を経験しました。私は、災害は他人ごとではなく、自分事としてとらえ、災害にあわれた人やそれを乗り越えようとする人から学ばないといけないと感じながら、亡くなった方のご冥福と早期の復興を願ってやみません。

私は、震災を単に他県での出来事で終わられることなく、『自分事(じぶんごと)』としてうけとめることが大切だと感じています。どのような角度で自分事としてとらえるかは様々だと思います。

- 防災という視点
 - 共助の重要性
 - 自分に置き換えて考えるという視点
 - 生き方という視点
 - 道徳的な視点
 - SDGsの視点
 - 『自助・共助・公助』の意味
- などいろいろあってよいと考えます。

上記の中で、私は、以下のことを考えました。

○『当たり前と思っていることは、当たり前ではなく、有難いことだ』ということです。学校で学び、自宅で家族とともに過ごすということは、ごく普通のことで、当たり前のことかもしれません。しかし、珠洲市の方々の生活を見たときに、それは、『有ることが難しい＝有難い』ことだと感じます。私たちの日常生活は、あって当たり前ではなく、『有難し』と認識し、感謝しなければならないことを強く感じています。

○私たちの生活は、様々な人たちが働き、支えあって成り立っているものだけど、震災のようにイレギュラーでその社会に限界が来た時、より一層支えあい、思いやる心が大切になると感じています。支えあい、思いやり、それが『共助』の基本だと考えると、日頃から私たちは、支えあいことや思いやりの心で接することを実践しておかなければ、いざというときの『共助』は成り立たないとい今回強く感じると同時に、救助や支援をしている方々をみて、我々人間には、本来、『共助』の精神があると感じています。

思いやり、支えあいの社会を維持・発展させるために必要なことは何だろうか？

思いやりの心を持ち、支えあう集団になるために必要なことを次に考えたいと思います。

日常生活の中で、憂慮（ゆうりょ）する事態が生じていることは前述しましたが、そのことをもとに考えると、次に示すことを日頃から私たちは意識しておく必要があるかもしれません。

TPOを考えた行動だと思います。

T (TIME) = 『時』

P (PLACE) = 『場』

O (OCCASION) = 『場面』

おそらく、学校生活の様々な場面で、このスキルを高めることは可能です。この行動スキルを身につければ、始業式で話をしたつらいと感じることがあっても、共助によって、きっと幸せになるのではないのでしょうか。そのプラス1（+1）にあたると信じます。逆に、このスキルに相反する行動をとっているならば、支えあい、助け合い、思いやりの心とは真逆のベクトルとなり、皆の幸せにはつながっていかないでしょう。ご家庭においても、保護者の皆様が経験したTPOの重要性を子どもに語っていただければ幸いです。

子ども県展展示会より（特選）



絵画部門特選
H さん



絵画部門特選
T さん



立体部門特選
Sさん

子ども県展の特選作品です。本校から、絵画部門で2名、立体部門で1名特選を受賞しました。おめでとうございます！

雪が舞う1月下旬。白色につつまれた学校

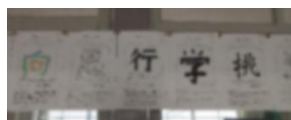


生徒の一人が校長室に飾ってくださいとつくった雪だるまと、体育館に入口にあった雪だるまです。心癒されました。

校内の様子（授業や掲示物などから）



技術科の木工の製作の様子と作品の一部です。整然とした雰囲気の中で製作しています。



2年2組および1年生の、漢字1文字で表す今年の豊富です。意気込みが伝わってきます。

